



ぶらりらいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 129

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

問) 戦時中に満州で発行されていた日本語の新聞を見たい。

答) まず、タイトルに“満州”とつく新聞を調べてみます。

【図書】 → 【タイトルから調べる】 → 【満州】 ⇒ 519件

絞り込みボタンの「分類」を選択し、この中から新聞を探してみます。

【大分類=000:総記】 → 【中分類=070:ジャーナリズム、新聞】 ⇒ 10件

『朝日新聞外地版 48 北満洲版・満洲版 1(1942年1月～12月)』(071/A82/48 閉架書庫)

新聞タイトルに「満州」とつかない新聞も、もちろんあります。満州で発行されていた日本語新聞はどのようなものがあるのでしょうか。

上記でヒットした資料の

『満州における日本人経営新聞の歴史』(070/R32 閉架書庫)の付録に

“満州における日本語新聞一覧表”がありました。

「大連新聞」「遼東新報」「奉天新聞」等、55紙も発行されていたようです。残念ながら当館で所蔵していませんが、国立国会図書館では閲覧できるものもあります。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等は、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

— 占領下の歴史を語る 第一生命館 —



1945年(昭和20年)8月15日、日本の敗戦で太平洋戦争が終結した。まもなく連合軍の進駐が開始され、占領時代が幕を開けた。日本全土に進駐した占領軍は40万人にも及び、焼け残った数少ないビルや家屋を接收する等、その職務と生活のための物資調達に着手した。

第一生命は1902年(明治35年)、日本初の相互主義に基づく保険会社として設立され、日本橋区新右衛門町にて営業を開始した。その後、順調な進展を遂げ昭和7年には業界第2位の保険会社となった。そして昭和13年、現在の日比谷本社社屋お堀側部分を建設、本社ビルとしての「第一生命館」が誕生していた。地上8階、地下4階のこのビルは大変、堅牢で戦時中は6階以上を東部軍が使用し、屋上には軍の高射砲が備えられていたという。

進駐してきた連合軍の最高司令官、ダグラス・マッカーサー元帥は昭和20年8月30日、厚木飛行場に到着、宿舎の横浜ニューグランドホテルに入った。翌9月、日比谷の第一生命館を接收。同ビル6階南側の社長室をその執務室と決め、サンフランシスコ講和条約が発効(昭和27年4月28日)したその年の7月まで、6年10ヶ月の間ここに日本を統治する総司令部をおいた。略称「GHQ」、俗称「マッカーサー司令部」ともいわれた。

平成2年秋、同ビルを解体して新ビルを建設することとなったが、第一生命は「昭和の歴史的証人ともなったこのビルを、外観だけでも後生に伝えたい」と、外壁はそのままに残して内部を新築するという画期的な工事を行った。こうして隣接する農林中央金庫有楽町ビルと一体化させ、平成7年に落成した現「DN タワービル21」は、総司令部がおかれた当時の景観を今日もとどめており、執務室、書斎、応接室とその机・椅子など調度品も当時のまま「マッカーサー記念室」として現在も大切に保存されている。

執務室はマッカーサー元帥が昭和20年9月～26年4月まで、その後リッジウェイ大將が昭和27年4月まで、クラーク大將が昭和27年6月まで、それぞれ使用した。

その他の接收された主な建物は銀座松屋、服部時計店、東京宝塚劇場、帝国ホテル、聖路加国際病院、放送会館、軍人会館、市政会館など東京中心部だけでも70～80ヶ所。航空施設は羽田空港をはじめとする各地の飛行場、港湾施設として横浜港など、さらに陸上輸送用の鉄道も進駐軍管理下におかれた。

◎参考文献 : 「実録日本占領 歴史群像シリーズ 79」(210.76/J55)開架

「写真と地図で読む! 知られざる占領下の東京」(213.6/W46)開架

「GHQ 東京占領地図」(210.76/F84)

「グラフィックカラー昭和史第9巻」(210.7/G95/9)

— 図書室から —

猛暑の後の爽やかな季節は少なく、急激な寒さに体調管理もおぼつかない状況を実感する日々です。日本の美しい四季はどうなるのでしょうか。寒さ厳しくなります。お身体お願ください。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ NO. 129

2010年11月20日 発行

編集・発行 昭和館 図書室

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1